



北保育園



北保育園遊戯室



21世紀創造の森

住民と力を合わせて ～プロジェクトの記録～

木こり2
プロジェクト

五条川水と桜の
プロジェクト

木こり
プロジェクト

大口町は、これまでさまざまなプロジェクトを立ち上げ、
職員がチームを組み事業を進めてきました。

木こりプロジェクト

世界にひとつだけの
保育園を建てよう！

大口町立北保育園は、皆さんご存知の通り、
武家屋敷風の一風変わった目を引く建物。一見、
公立保育園とは思えない独創的な建物で、いま
や大口町の「他にはない個性あふれる名物施設」
の代表ともなっています。この保育園の完成の
裏には、平成26年から始まった「木こりプロジェ
クト」と呼ばれる産官民で進められた大きなプ
ロジェクトがありました。

きっかけは地元企業の申し出と
町長の思いの一致！

木こりプロジェクトが立ち上がる前年のこと。
大口町内に本社を置くタイム技研(株)の丹羽
会長から、鈴木町長との会話の中で、自社の福
利厚生の一環で所有する「21世紀創造の森」(岐
阜県関市下之保)で出る間伐材を、地元大口町
に提供したいという申し出がありました。

ちょうどその頃、大口町では北保育園の老朽
化による建て替えの計画が進んでおり、大口町
の歴史を感じられる外観で、子どもに自然のぬ
くもりを与えるような園舎にしたいという目標
を掲げていました。そんな中での木材提供の申
し出は、願ってもないお話でした。せっかくなら
ば住民の皆さんにも参加いただき、木を切り出す

平成25年

平成26年

平成27年

平成28年

平成29年

平成30年

令和元年

令和2年

令和3年

令和4年

木こりプロジェクト

北保育園建て替え事業に向け発足

五条川水と桜のプロジェクト

五条川堤の桜並木の保存を検討する「五条川水と桜のプロジェクト」

木こり2プロジェクト

「五条川水と桜のプロジェクト」の取り組みを引き継ぐ「木こり2プロジェクト」を発足

ところから一歩一歩作り上げていきたいと、「木こりプロジェクト」が立ち上がり、タイム技研(株)の社員の皆さんのご協力を得て事業が進められました。
※北保育園のある地域は、戦国武将織田広近が築城した小口城を囲む城域だったと考えられています。

産官民が力を合わせて

大口町は、平成21年の「まちづくり基本条例」以来、「参画と参加の協働のまちづくり」をスローガンに掲げ、住民主体のまちづくりを進めています。「木こりプロジェクト」も、ただ北保育園に使う資材を「21世紀創造の森」から切り出して運んでくるというだけではなく、構想や設計の段階から職員や保育士、地域の皆さんなど、保育園に関わるさまざまな人ができる限り参加し、できる過程にも関わりながら「みんなの保育園」を作り上げていくというもの。まずは、タイム技研の社員の皆さんが月2回「21世紀創造の森」で間伐材を切り出す作業に参加させていただきました。

「『21世紀創造の森』には、もとも幅の狭い林道しか整備されていません。スギやヒノキを切つて倒すことももちろん大変なのですが、切り出した丸太を山の斜面か

らひきずり出す運搬作業がさらに「苦勞でした」と、プロジェクトリーダー。「最初は間伐材を管理する広場まで、短い丸太を線路のように平行に並べてその上を人力でゴロゴロ移動させました。間伐材にロープをくくりつけて、10人ほどで引っ張ります。体力勝負の作業で、毎回筋肉痛になりました」そんな体育会系の作業が待っているプロジェクトのリーダーを任されたときはどんな気持ちでしたか？との問いに、「正直、かなり戸惑いました。土木作業はやったことがない上に、リーダーという立場も初めて。でも、当時の上司のプロジェクトにかける熱い思いを事前に聞いていましたし、元々体を動かすことは大好きなので、体力作りも兼ねて前向きに挑戦しようかと。一緒に活動する住民の皆さんに事業の話をしたとき、「大変だね」ではなく「おもしろそうだね」という言葉をいただき、楽し



まなくては損だと、気持ちが切り替わりました」とのこと。

月2回の活動では、タイム技研の社員の方が現地で炊き出しをしてくれたり、バーベキューの日があったり…。交流を通してタイム技研の皆さんとまるで部活動のような楽しい交流があったのが一番の思い出です。

北保育園の完成

プロジェクトメンバーが作業に慣れてきた頃、町内3園の保育士の皆さんや環境保全活動をされている住民団体の皆さんなどにも切り出しに参加してもらい、同じ目標に向かっていく結束力がさらに高まっていきました。また町内の小学生を対象に「木こり体験会」を実施。現地で間伐作業の見学や森林の散策、のこぎりで枝の剪定や丸太の運搬作業の体験をしたり、木片でキーホルダー作りもおこなわれました。ほかに、木こりプロジェクトとして「ふれあいまつり」に出展し、子どもたちに切り出した端材で作った木のプレートに絵を描いてもらったり、「間伐」という作業が森林にとってなぜ必要なのかをパネルで説明したりしました。

雨の日も雪の日も切り出しては運び、運び出した資材は3年間で236本にも

のほりました。

そして3年がたった平成29年8月、北保育園はついに完成を迎えました。みんなで力を合わせて運んできた資材は、建設を担当した業者に、市場で調達した資材とは別で保管してもらい、玄関や遊戯室など保育園の中でも特に人が集まり目にとまる場所に使っていたきました。

とりわけ町長が「斧入れ式」をおこなった資材は「シンボルツリー」として玄関を入った正面に堂々とそびえたっています。このシンボルツリーは、21世紀創造の森の樹齢150年を超えるヒノキを加工したもので、秋の伝統芸能発表会（平成27年）で北保育園の園児が曳き回しをおこないました。



▲シンボルツリー

今も続く活動



▲園児による曳き回し

この木こりプロジェクトの活動をきっかけに、町内の3つの公立保育園の年長児が、関市の21世紀創造の森へ秋の遠足に出かけています。コロナ禍で令和3年は中止となりましたが、今や恒例行事となっています。現地ではタイム技研の方にお世話になり、社員の方がチェーンソーで木を切り出すところを見学したり、木の皮をはく体験をしたり、山を散策しながら滝を見に行ったりもします。また、大口町の固有の桜である「おおぐち観鋭桜」を、毎年子どもたちの手で植樹してきました。

保育園では北保育園建替え事業をきっかけに「木育」を実践するよう



▲「おおぐち観鋭桜」の植樹

になりました。木に触れ、木で作った木で遊ぶ取り組みを進めています。親子で作ったマイ箸で給食を食べたり、机、椅子のメンテナンスなどしたり、木のおもちゃで遊んだり、木片を使って制作をしたりしています。

取材にて

このような「木こりプロジェクト」のさまざまな活動を経て、平成29年9月、北保育園は落成式を迎えました。プロジェクトリーダーは当時を

振り返り、「思い入れがある分、感激もひとしおでした。業者さん頼みではなく、手間暇をかけたことにより付加価値として達成感や感動が生まれたと思います。得難い経験ができたなと思います」と語っていました。また、結果を求めるだけでなく、目標に向かう過程を大事にすることで大口町らしさを感じたということです。

たくさんの方々の思いの詰まった北保育園。こうした背景を知ると、武家屋敷風の個性的な建物の中に、大口町の歴史の中の先人たちが子どもたちに託した未来が見えてくるような気がします。

タイム技研（株）と大口町は、この北保育園建設事業と木育推進事業によって『2020愛知環境賞優秀賞』を授賞しました。

木こりプロジェクトは、北保育園完成の後、「木こり2（ツ）プロジェクト」として新たな活動を始めました。五条川堤の桜並木の保存を検討する「五条川水と桜のプロジェクト」とともに、次号でお伝えします。